



# Influenza at the human-animal interface

## 動物由来インフルエンザ情報

\* 2013年1月16日現在の概要と評価（2013年1月22日更新）

### 1 鳥インフルエンザ（A/H5N1）ウイルスによるヒトの感染症と関連した動物衛生事象

2003年から2013年1月16日までに、ヒトの鳥インフルエンザA（H5N1）ウイルス感染症で610例の検査確定症例が15カ国から公式にWHOに報告されました。そのうち360例は死亡例です。

2012年12月17日の最終更新以降には、ヒトのインフルエンザA型（H5N1）ウイルス感染症の新しい検査確定症例の、WHOへの報告はありませんでした。

インドネシアでの最近の家禽の集団発生は、インフルエンザウイルスA（H5N1）クレード（clade：抗原性の違いによる種類）2.3.2.1によって起こりました。このクレードは、以前にはインドネシアでは検出されていませんでしたが、数年前から、家禽に循環しており、他の国ではH5N1感染症で少数のヒトの症例から分離されていました。

インフルエンザウイルスは常時、家禽の間を循環しており、散発的あるいは小集団のヒトの症例の危険性は何時でもあります。現在の情報に基づいて、2.3.2.1クレードのH5N1型ウイルスによる公衆衛生上のリスク（例えば、ヒトでの病原性、伝達性）は、他のH5N1型ウイルスのクレードと異なっているようには思えない。

鳥インフルエンザA（H5N1）ウイルスの公衆衛生リスク評価：公衆衛生上のリスクは変わっていません。

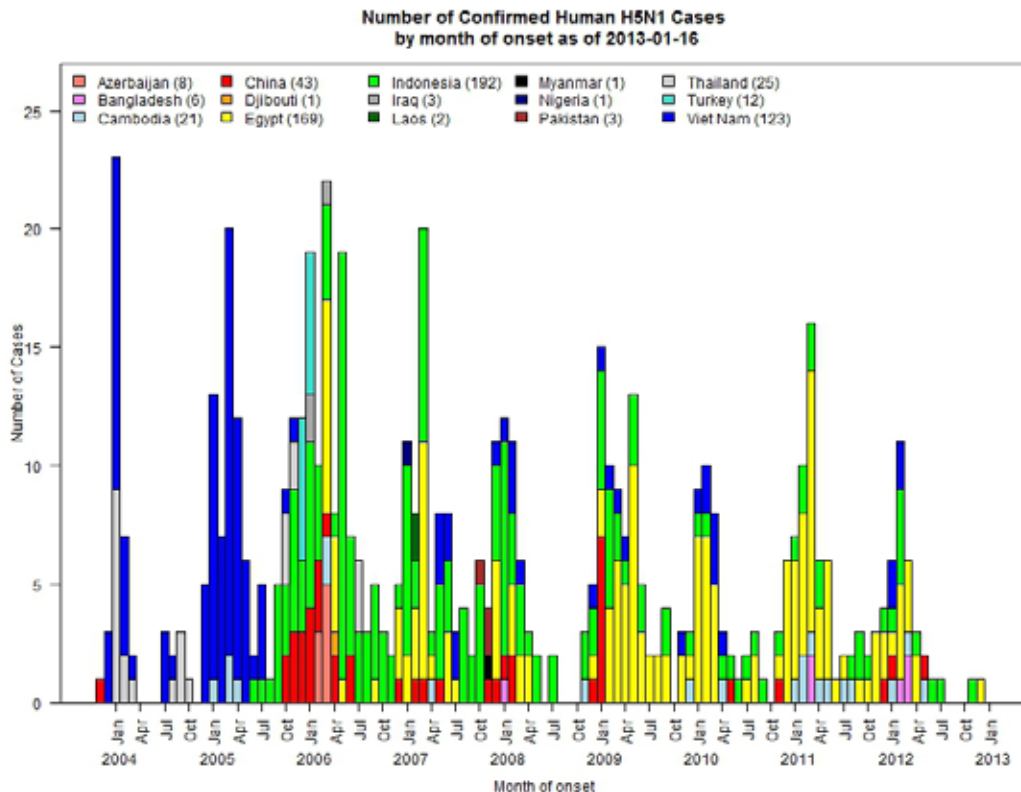


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザH5N1症例の疫学統計

Areas with confirmed human cases for avian influenza A(H5N1) reported to WHO, 2012- to-date\*.

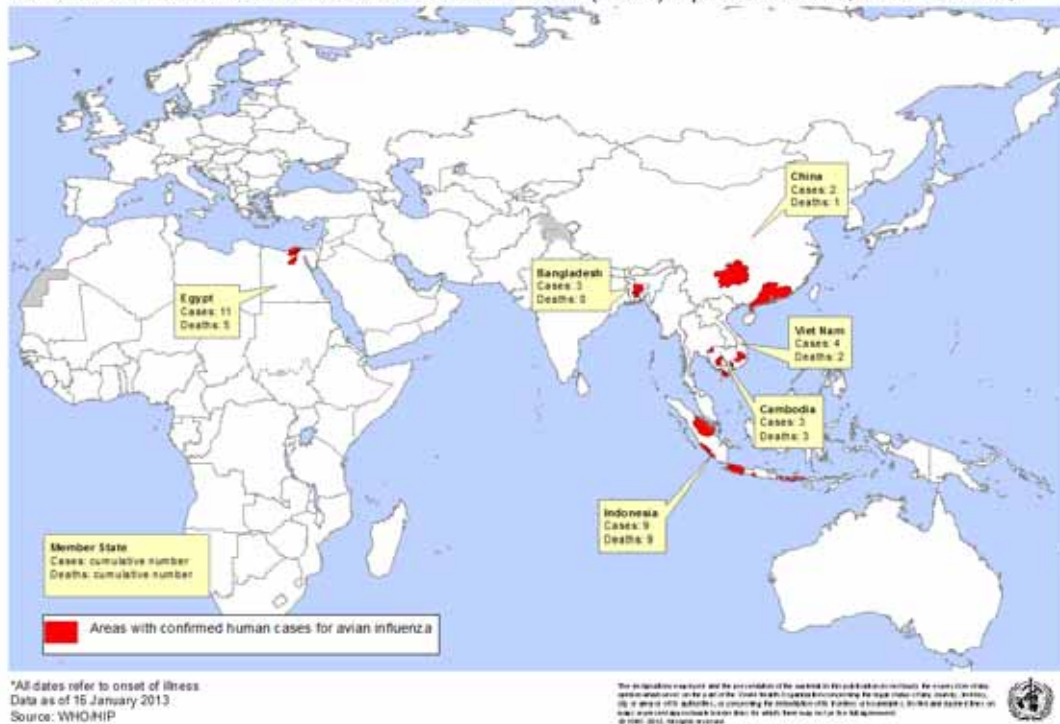


図2 2012年でのヒトの鳥インフルエンザH5N1症例の発生地

## 2 ヒト流行型以外のインフルエンザウイルスによるヒトの感染症

### A (H3N2) 変異型ウイルス感染症

変異型インフルエンザA (H3N2) v 感染症の新規のヒトの症例は、アメリカ合衆国からは報告されませんでした。

### 変異型A型 (H3N2) インフルエンザウイルスの総括的公衆衛生リスク評価

このウイルスはアメリカ合衆国でブタ集団に循環しているので、更なるヒトの症例と小さな集団発生が予測されるかもしれません。状況の緊密な監視が必要です。

潜在的公衆衛生の脅威である高病原性鳥インフルエンザウイルスの動物の集団発生全体として、動物のインフルエンザの集団発生の公式報告は、過去数ヶ月間に増加しました。この季節パターンは、北半球での冬の始まりを想定させます。

メキシコでは、家禽で新しいインフルエンザA型 (H7N3) の集団発生が報告されました。メキシコでの2012年の夏のシーズン終盤中、A (H7N3) による2例のヒト感染症例は、家禽での類似した集団発生と関係していました。これらの症例は、結膜炎が主要な臨床所見で、軽いものでした。このことは、感染したか、もしかすると感染した動物のいる近くで住んでいる従事者を守るために、疾患の認識を向上させ、適切なバイオセーフティー対策を実施する必要があることを、動物のインフルエンザウイルス感染症の発生を経験している国々に訴えています。動物でのこの疾病を最もよく制御するため、公衆衛生に対するリスクを少なくするために、動物衛生部局との共同作業は必要です。

インフルエンザウイルスが絶え間なく進化する性質があるため、WHOはインフルエンザウイルスの世界的監視の重要性を強調し続けており、日常のインフルエンザ発生動向調査を強化するよう、すべての加盟国に依頼しています。

そのような季節性以外のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症は、国際保健規則 (2005) に従い、WHOに報告しなければなりません。